

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 駒 貴明

審査担当者 主査 教授 玉城 英彦
副査 教授 瀬谷 司
副査 教授 大滝 純司
副査 教授 有川 二郎

学 位 論 文 題 名

Studies on methods of differential diagnosis, epidemiology and pathological
mechanism of hantavirus infection

(ハンタウイルス感染症の鑑別診断法、疫学および病態機構に関する研究)

申請者はハンタウイルスの核タンパクの交差反応エピトープを欠損させた trN100 抗原を ELISA に応用し、新世界ハンタウイルス感染の血清型鑑別を可能にした。またベトナム北部でのラットにおける病原体の保有調査から、都市部のラットではレプトスピラ、ソウル型ハンタウイルス、ラット E 型肝炎ウイルスが流行していることを明らかにした。更に、ハンタウイルスを感染させた SCID マウスで認められた肺水腫について、申請者は好中球の関与を疑い枯渇実験を行い、ハンタウイルス感染による血管透過性亢進や肺水腫形成には好中球が中心的役割を果たしていることを解明した。

審査会では、副査の大滝教授より、鑑別診断を行う際のカットオフ値および感度、特異性について、また臨床での有用性についての質問があった。副査の瀬谷教授より、アンデス型ハンタウイルスがヒト-ヒト感染を起こすウイルス学的な知見および抗 Gr-1 抗体の特異性についての質問があった。主査の玉城教授より、鑑別診断法として ELISA 法を選択した理由、アメリカ大陸でのウイルス感染の鑑別診断法を、日本在住の申請者が研究を行った理由について質問があった。副査の有川教授から腎症候性出血熱を引き起こすハンター型ハンタウイルスを感染させて肺水腫が認められた理由について質問があった。これらに対して申請者は、研究結果やその過程で得られた知見、文献的考察を交えて概ね適切な回答を行った。

この論文は、新世界ハンタウイルス感染の鑑別診断法を開発し、ラットにおける各種病原体の保有率を明らかにし、更に好中球が血管透過性亢進および肺水腫形成に関与していることを解明したことで高く評価され、今後の更なる診断・疫学研究および基礎研究の発展を期待させるものである。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を取得するのに十分な資格を有するものと判定した。